

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	令和 6 年度瑞穂町子ども・子育て会議（第 4 回）	
開 催 日 時	令和 6 年 9 月 30 日（月）午後 6 時 30 分から午後 7 時 56 分まで	
出席者及び 欠 席 者	【出席者】 委員 11 名、事務局 3 名、関連部署職員 4 名、コンサルタント 2 名、合計 20 名 【欠席者】 1 名	
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議題 （1）瑞穂町子ども・若者の生活実態調査結果について （2）瑞穂町子ども計画骨子案について （3）子どもの意見聴取について 4 その他 5 閉 会	
傍 聴 者	1 名	
配 布 資 料	当日配布 ・ 次第 ・ 【資料 1】 瑞穂町の現況について ・ 【資料 2】 瑞穂町子ども・若者の生活実態調査報告書 ・ 【資料 3】 第 2 期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画の振り返り ・ 【資料 4】 計画の基本的考え方 ・ 【資料 5】 子どもの意見聴取について	
会 議 内 容 （主な意見 等を原則と して発言順 に記載。）	1 開 会 （会長） 2 あいさつ （会長）	本日の出席委員は 11 名である。瑞穂町子ども・子育て会議第 7 条規定に基づき、半数以上の委員の出席により会議が成立となるため、開会する。 こんばんは。このところ朝晩涼しくなって、暑さによって眠れないという日から解放されたのはいいが、今度は涼しくなりすぎて体調を崩すという話も聞いている。 ところで、先日チラシが来て、瑞穂町子ども家庭センターが 10 月 1 日に開設されるということだが、子ども家庭センターは、妊娠期から子育て期に渡り支援を行い一本化が図られるということで、これは本当に良いことだと思う。チラシが分かりやすく、これによって、家庭養育が強化され、子どもを中心

		と考える社会的養育の質の向上が図られると感じている。
	3 議題 (コンサルタント)	(1) 瑞穂町子ども・若者の生活実態調査結果について ※(資料1)『瑞穂町の現況について』(資料2)『瑞穂町子ども・若者の生活実態調査報告書』を用いて説明を行う。
	(委員)	資料1の6ページの男女別就業状況について、年齢の区切りはあるのか。若者の就労の状況について述べているところだが、高齢者も含まれているのか。
	(コンサルタント)	就業が可能な方ということで、高齢者も含めてこちらの数値を算出している。
	(委員)	資料2の調査結果の4ページに「性暴力を受けた際に、声をあげられるかわからないと回答された方が多く、また、相談窓口についても7割以上がわからないと回答しています。」とあるが、3割の方は相談窓口について知っているかと回答しているのか。
	(コンサルタント)	結果は34ページに記載している。性暴力の被害者のための相談窓口を知っているかという質問に対して、3割近くの方が知っているかと回答した。
	(副会長)	自由記載欄について、調査結果には載っていないがどのような意見があったか。
	(事務局)	子どもからは、学校の先生に対する不満等が書かれていた。保護者からは大型ショッピングセンターが撤退した関係で買い物する場所が減ってしまった等の記載があった。
	(会長)	資料2の1ページのWeb回収結果について何か意見はないか。

	(委員)	18歳～39歳で考えると29%の方がWebで回答しているが、若い世代が意外と少ない。それは親の方針かもしれないし、何か因果関係はあるのか。
	(事務局)	今回、Webで回答してくれた小・中学生もいて、スマートフォンを使っている子どもが多いと想定していたが、親が使用時間の制限をしているなど、スマートフォンを自由に使えるとは限らず、思ったほど回収率は上がらなかったと感じた。
	(会長)	実態としてスマートフォンを使うというのはものの凄い数だと思うが、結果を見ると数が少ないと感じた。
	(コンサルタント)	(2) 瑞穂町子ども計画骨子案について ※(資料3)『第2期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画の振り返り』(資料4)『計画の基本的考え方』を用いて説明を行う。
	(関連部署職員)	2ページ基本目標2の4行目後半から「待機児童は未だ解消されておらず・・・」とあるが、4月時点では令和2年度から待機児童ゼロを継続している。近年では、保育園の定員割れが続いている状況なので、ここの書きぶりは調整させていただきたい。
	(事務局)	これはまだ暫定案なので、中身については、各担当に確認をしてもらいブラッシュアップしていこうと思っている。
	(委員)	資料2の調査結果によると、ひとり親家庭の子どもの将来の進学希望について、両親がいる家庭と比較すると、「高校まで」と回答された割合は、ひとり親家庭の子どもで回答割合が高くなっている。しかし、色々と施策が出ていて、無償化等経済的な部分での支援があり、昔と比べると進学しやすい状況になっている。調査でそのような結果になっているのは、遠慮する気持ちが子どもたちの中にあるのかと思った。進路については主に学

		校で相談するが、学校が経済的なことまで踏み込めて行けるのかと思うと、地域で子どもたちの相談を受け入れるところをしっかりと確立していないと、子どもたちの不安を払拭できないのではないかと感じた。 令和2年度から待機児童ゼロで、保育園によっては定員割れしているという話が出たが、すごく人気がある保育園と、定員割れしてしまう保育園と差が出てしまう理由は何か把握しているか。
	(関連部署職員)	地域的な偏在の関係もあるし、口コミもあると思うが、具体的には分かっていない。
	(委員)	待機児童ゼロというのは、みんなが行きたい保育園に行けてゼロなのか、我慢してゼロなのかを把握した方がいいのではないかと。もし調査をして理由が分かれば、良い保育園に近づけるようにアドバイスする等が出来て、みんなが行きたい保育園になり待機児童ゼロになれば最高に良い。
	(委員)	そのとおりで、待機児童ゼロと聞いても違和感もなく、周りのお母さんたちは保育園に入れないとずっと言っていて、落ち続けている方もいる。入りたい保育園を選んでいるのに入れないのは待機児童にならないのかすごく疑問であった。口コミで人気のない園もあるので、改善してくれたら待機児童ゼロになるのではないかと考えた。
	(委員)	保育園を選ぶ要件として、近所で利用しやすいというのが一番である。それぞれの保育園で色々な特色を持ちながら支援を行っているので、私の感覚では保育園の優劣はそれほどなく、それぞれの園がしっかりと取り組んでいる。
	(委員)	僕ら世代で保育園を調べるとなると保育園のホームページを確認するというのは割と少なく、

		SNS で検索するので、情報の偏りはあるのではない か。共通する思いとして、我が子はなるべく良い環 境に入れたいと思っている親は多く、どこでもいい から入れたいというわけではないが、情報の口コミ には偏りがある。瑞穂町子育て世代で車を持ってい るか把握しているかは分からないが、車があれば地 域に準ずるということは少ないのではないか。園の 特色という素晴らしい点と、園によって良い部分も 悪い部分も違うので、フラットな立場で出来るポジ ションの人がアドバイスしていくことは、確かに必 要なことだと思う。それがこどもまんなかというこ とにつながるのではないか。 資料 2 の 4 7 ページ間 13「あなたは、これから子 ども・若者のために、瑞穂町に必要な取組は何だと 思いますか。」という質問に 73.5%の人が「お金の 心配をすることなく学べるように支援する」と答え ているので、1 つ意見として強いのではないかと思 う。
	(会長)	資料 4 の (3) 施策体系 (案) について、どこが 新しくなったのか、前のものと比較して、もっと具 体的に分かると良いのではないかと感じた。
	(事務局)	(3) 子どもの意見聴取について ※ (資料 5) 『子どもの意見聴取について』を用い て、説明を行う。
	(委員)	先日、モノレールの延伸に関するまちづくりのワ ークショップに参加したが、モノレールが延伸す るのでこういうものがあつたらいいというのを大人 たちで話し合ったので、子どもたちにも聞けるとい い。
	(事務局)	ちょうどこどもフェスティバル会場の 2 階に「モ ノレールを呼ぼう瑞穂の会」のブースがあるので、 そこを上手く利用して、より具体的な質問にしたい。

	(委員)	②もし、あなたが瑞穂町の町長になったら、どんなまちにしたい？の選択肢で、「家族で楽しむことができるまち」「魅力があり多くの人が集まるまち」とあるが、具体的にどういうことか。
	(事務局)	楽しむというのは、ショッピングセンターなどあって、家族で一日楽しむことができるまちを想定している。魅力があり多くの人が集まるというのは、町内外を問わず、遠くても来てもらえるようなイベントや観光できるスポット等を想定している。
	(委員)	「家族で楽しむことができるまち」「魅力があり多くの人が集まるまち」は①の瑞穂町のいいところを教えて！という質問と通ずるところがあるが、「安全・安心に暮らせるまち」だけ色が違う気がする。
	(事務局)	大人の町民意識調査では、1番に交通の便、2番に大きな病院が近くにあるという結果だったが、子どもがどのように答えるか非常に関心がある。
	(委員)	イメージがしにくいと答えにくいので、具体例を示した方が良い。
	(委員)	昔と違い、近くの公園ではボール遊びや花火が禁止で、子どもたちはどんどん肩身が狭くなっていく。保育園がうるさいと言われ、うちの園では50年以上続いていた焼き芋行事が、クレームが来て昨年から中止になった。多数派の意見が強い中で、子どもたちがどう感じているのか、子どもの意見を聞きたい。
	(委員)	聞き取りの方法について、シールを貼るということだが、具体的な場所やイベント名を書いてもらったりしないのか。

	(事務局)	具体的な場所やイベント名等が子どもの回答から得られたときは、書き留めるようにする。
	(委員)	ボードはいくつ用意するのか。
	(事務局)	拠点がないので、4～5人で各自ボードを持ちながら聞き取りを行う予定である。2階の工作のブース辺りには2名程度は常駐するような形で、後は全体を歩き回って聞き取る形を予定している。
	(委員)	去年は雨だったため、各ブースは室内のみとなった。1時間以上並んでいた。外で並んでいる子どももいて可哀そうだった。
	(会長)	5人くらいのメンバーでやるということで先ほどの会場図にあるようなかたちで何人か動き回りながら、ある程度3人ぐらいで拠点を決めてやるというかたちで良いか。
	(事務局)	拠点はないが、2階の工作ができるブース付近では、いつも人がいる、その他は全体を歩き回る。次回は(こどもフェスティバルの)反省点を踏まえて、産業まつりに向けて改めて意見いただければと思う。
	(会長)	今回はその形で、次回の11月の産業まつりではその反省を踏まえて、方法を検討する。こどもフェスティバルを楽しみに来ているので、難しいことを要求することは避けたいが、大事なことは「こどもまんなか社会」という言葉を色んな場面で出して、子どもの意見をたくさん聞くということだけでも知ってもらえたらと思う。
	4 その他 (委員)	※今回の会議でその他意見等があればいただく 資料2の調査結果について、職員やPTAに公表してもいいのか。

	(事務局)	これは速報版なので確定はしていないが、確定出来次第、ホームページ等で公表予定である。
	(委員)	今、保育園で第三者評価の保護者アンケートを出すことになっているが、その結果を見れば保護者の意見が分かるので、うまく活用できないのか。
	(関連部署職員)	第三者評価に関しては、東京都の「ふくむすび」と検索すると、結果が誰でも見られる。町としても事業所の把握という意味で見ている。
	(委員)	昨日、瑞穂町の自主防災組織で備蓄品の確認を行ったが、町として子ども用のオムツやミルクの備蓄、保育園との連携等、乳幼児の防災対策は考えているのか。
	(委員)	それぞれの町内会や連合会がやっていて、私の住んでいる地区の備蓄の中にはオムツやミルクは含まれていない。
	(関連部署職員)	町としての支援としては、保育園に対し毎年補助金が出るので、それを活用して備蓄品等は買ってもらっている。公立保育園の中には、企業と連携してやっているところもある。基本的に保育園の対策は町の補助金を活用して備蓄品を購入するということは、どこの園でも行っていると把握している。
	(委員)	町内会の人にはなかなか気付かないので、「乳幼児のオムツやミルクが備蓄品の中にあると助かります」という声を上げないといけない。
	(会長)	今、防災意識というのは高まっており、そのような情報は町の関係機関に挙げていただくと回答が示されるため、そのようなかたちで進めていければ良い。
	(副会長)	<情報提供について>

	(事務局) 5 閉 会 (副会長)	・進路学習会について 不登校の子・主に中学生が対象の進路学習会がある。10月27日(日)青梅市内のホールで開催する。私は2回ほど参加したことがあるが、一般の高校の受験の話や、定時制・通信制の高校の子どもと話せるため、とても良い。私の知り合いでも選択肢がいろいろあるということを知れて安心したと話している。 ・OHAKO イベントについて 10月26日の10時から16時まで箱根ヶ崎駅西口公有地にて、サイクリングとインクルーシブ遊具のイベントが開催される。障がい等をお持ちのお子様でも楽しめるイベントであるため、多くの子どもたちに来ていただきたい。 <今後のスケジュールについて> 第5回は11月5日(火)、第6回は12月6日(金)を予定している。 以上で第4回瑞穂町子ども・子育て会議を終了する。
--	-------------------------------------	---